

**3月1日
~7日 春の全国火災予防運動**

「火は見る あなたが離れるその時を」を統一スローガンに、3月1日から7日まで春の全国火災予防運動が展開されます。昨年は、町内で10件の火災が発生しています。これからの時季は空気が乾燥し、風の強い日が多くなり、火災の起こりやすい気象状態が続きます。火の元には常に注意を払い、家族ぐるみ、地域ぐるみで防火に努めましょう。



住宅防火 いのちを守る7つのポイント

- ◆ **3つの習慣** ▶ 寝たばこは、絶対にやめる ▶ ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する ▶ ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- ◆ **4つの対策** ▶ 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災報知器を設置する ▶ 寝具、衣類、カーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する ▶ 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する ▶ お年寄りや体の不自由な人を守るため、隣近所の協力体制をつくる。
- ◆ **問い合わせ** 山田消防署 (☎82-3139) へどうぞ。

イラスト



黒澤 恰 (10)

神崎 (12)

梶山 寛次 (?)

Arielle (13)

ゆーり 玲乃 (18)

姫神 (12)



嵐の宿題くん (12)

阿部 祥子 (11)

魚 (8)

みんなのスペース



はしば ゆいこちゃん (豊間根保育園・6歳)

わたしのゆめ

チョコシートケーキが大好きなので、大きくなったらケーキ屋さんになって、おいしいケーキをたくさん作りたい。

古里への便り



ふる里山田同郷の会会員 千葉県八街市 鈴木 達志さん (60歳) (豊間根出身)

昨年帰郷の折、子供時代の行動範囲を自分の足で散策してみました。歩きながら、▽S君の家の庭の戸袋の辺りは、セド玉のスペースで、蟻地獄やら谷やら作られていたはずだけどそのままあるわけではない。あ▽庭の真ん中辺りはバッタのスペースに

はどうか。カルシウムも豊富で、頭の良い子、骨の丈夫な大人になると思います。大人も子供もたくさん魚を食べて健康な体をつくりましょう。佐藤 豊子 (境田町・68歳)

なっていて、バッタにろうを擦り込み、なおかつ薄く削って相手の下に潜り込めるように工夫をした。なあ▽わざと学生服のボタンをはずし、

ほぼ50年前にタイムスリップしてしまいました。気がつけば1週間30分。その狭さにも驚かされましたが、その間、誰にも会わないことにもっと驚かされました。やっぱり豊間根の現代っ子たちもタイムと携帯に毒されてしまったのかななど一人て嘆いてしまいました。道は舗装され、家々はきれいになっておりますが、そこに立つととたんに40数年前にタイムスリップします。私にとつて、十二神山と堀合岳に挟まれたあの狭い空間はタイムマシンそのものです。

投書

どんなことも結構です。どしどしお寄せください。

魚を食べて健康な体を

去る1月23日、グリーンピア田老を会場に県下漁協女性部別研修会が開催され、山田湾漁協女性部より8人が参加しました。魚食普及や環境問題をスローガンとした講演などがあり、有意義な研修会となりました。研修会を通じて、私たちは海の町に暮らしながら魚を食べる量が少ないと思いました。お母さんたちが料理を工夫し、子供たちにもっと魚を多く食べさせて

1月26日、わかき保育園で冬の行事「もちつき大会」があった。昨年は保育園の白が古くなり、衛生面の点で中止になったが、子供たちにもちつき体験をさせたため、今年は地区の方からお借りしての開催となった。お父さんたちがつきあげたもちをお供えが保護者と一緒にき

ねを振り上げる。小さい子供たちはきねを持つのもやっとだが、年長にもなると力強さも増し、「もう一回、もう一回」ときねを振り上げる。あつあつのもちを親子でひと口大の大きさに丸めて、きなこをまぶして完成。みんなで食べたもちはおいしく、子供も大人も笑顔でした。この紙面をお借りし、白を貸してくださった方に感謝申し上げます。年長さんもう少して卒業です。祖父母参観、お別れ遠足が残っています。保育園での思い出をいっぱいいっぱいつくって巣立つていってください。佐々木三津枝 (田の浜・45歳)

海流調査瓶漂着の記憶

1月30日の毎日新聞社会面に「海流調査瓶 山口から青森に漂着」との記事が掲載された。ああ、やっぱり海は生きています。そして流れていると感じた。というのも、定かな記憶ではないが、ワカメ養殖に大浦漁協が成功したとのニュースが全国の漁協を駆け巡っていた時代の昭和41、42年ごろのこと。小谷鳥大須賀でワカメ業者全員による共同作業があった。いつものことながら会長の指示で作業の見回り中、「山卓さん、こんなのが見つかった」と、色の付いた小さなガラス瓶を持ってきた人がいた。二人で見るとなにやら紙切れが入っている。すぐに海流調査と分かった。放流元は何と背中合わせの秋田県。作業終了後、必要事項を記入して返送しようとしたが、正確さが必要と思われ、漁協の山崎浩義業務課長に指導を受け、返送した。そのことが岩手日

安全運転を心掛けよう

1月16日から30日まで交通安全協会山田支会では、交通安全活動の一環として、交通安全講習会を開催しました。道交法および事故例のビデオを映写し、飲酒運転の根絶や安全運転に役立つよう、宮古警察署交通課と山田町役場住民生活課のご協力を得ながら、豊間根を皮切りに大沢、山田、織笠、船越、田の浜、そして大浦を最後に開催し、無事終了しました。ご協力ありがとうございました。このような活動を行っても依然として無くなりなのが飲酒運転です。今年になって宮古管内では1人の検挙者が出ています。幸い本町では違反者(飲酒運転)もなく経過していますが、今後も安全運転を心掛けましょう。交通安全協会では、これからも地道な取り組みを続けていきますので、運転者の皆さま、地域の皆さま、同協会の活動の趣旨をご理解いただき、合わせご協力をお願い致します。交通安全協会 山田支会 西館隆(船越・?歳)

麦踏み感触懐かし

車のラジオから「早春賦」の歌が流れ、古里へ私の心を誘った。幼いころ、冬越しをした畑は一面緑の麦畑。農婦たちが麦踏みをしている姿が見えた。私も小さい足で遊びながら麦踏みをした。「さくさく、さくさく」と、あの感触は昨日のことのように覚えている。食糧難の世の中だったため、米と同じに大麦、小麦も主食。余計にも幼心に残っている。時も変わり、今は杉山になったが、車窓から走馬灯のように映るあの古き時代を宝物として万感の思いで眺めながら通り過ぎた。菊地サカエ(織笠・73歳)

◆ **投稿規定** ▶ 住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▶ 住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▶ 営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▶ 投書を添削することがあります。◆ **あて先** 〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報管理担当へ。